



- 問1 情報セキュリティにおける機密性、完全性及び可用性のうち、特に完全性の向上を目的とした取り組みとして、最も適切なものはどれか。

ア.	サーバを事前に2台分用意した構成で運用する。
イ.	システムの稼働率の向上策を検討する。
ウ.	システムの利用開始時にユーザ認証を求める。
エ.	情報の改ざんを防止する対策を施す。

答え： \_\_\_\_\_

- 問2 暗号方式には共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式がある。共通鍵暗号方式の特徴として、適切なものはどれか。

ア.	暗号化通信する相手が1人のとき、使用する鍵の数は公開鍵暗号方式よりも多い。
イ.	暗号化通信に使用する鍵を、暗号化せずに相手へ送信しても安全である。
ウ.	暗号化や復号に要する処理時間は、公開鍵暗号方式よりも短い。
エ.	鍵ペアを生成し、一方の鍵で暗号化した暗号文は他方の鍵だけで復号できる。

答え： \_\_\_\_\_

- 問3 暗号化に関する記述のうち、適切なものはどれか。

ア.	暗号文を平文に戻すことをリセットという。
イ.	共通鍵暗号方式では、暗号文と共通鍵を同時に送信する。
ウ.	公開鍵暗号方式では、暗号化のための鍵と平文に戻すための鍵が異なる。
エ.	電子署名には、共通鍵暗号方式が使われる。

答え： \_\_\_\_\_

- 問4 共通鍵暗号方式の説明として、適切なものはどれか。

ア.	暗号化以外に、デジタル署名にも利用される。
イ.	公開鍵暗号方式に比べて、復号速度が遅い。
ウ.	代表的な方式として、RSA方式がある。
エ.	通信相手ごとに異なる共通鍵が必要である。

答え： \_\_\_\_\_

- 問5 公開鍵暗号方式と共通鍵暗号方式において、共通鍵暗号方式だけが持つ特徴として、適切なものはどれか。

ア.	暗号化に使用する鍵を第三者に知られても安全に通信できる。
イ.	個別に安全な通信を行う必要がある相手が複数でも、用意する鍵は1つでよい。
ウ.	電子証明書によって、鍵の持ち主を確認できる。
エ.	復号には、暗号化で使用した鍵と同一の鍵を用いる。

答え： \_\_\_\_\_

- 問6 次の文書で（ a ）と（ b ）に入る字句の適切な組合せはどれか。

それぞれ公開鍵と秘密鍵を持つ A 社と B 社で情報を暗号化して送信する。A 社から B 社に情報を送信する場合、A 社は（ a ）を使って暗号化した情報を B 社に送信する。B 社は A 社から受信した情報を（ b ）で復号する。

	（ a ）	（ b ）
ア.	A 社の公開鍵	A 社の公開鍵
イ.	A 社の公開鍵	B 社の秘密鍵
ウ.	B 社の公開鍵	A 社の公開鍵
エ.	B 社の公開鍵	B 社の秘密鍵

答え： \_\_\_\_\_



## IT パスポート試験対策 3/16(日)

問7 ワンタイムパスワードを用いることによって防げることはどれか。

ア.	通信経路上におけるパスワードの盗聴
イ.	不正侵入された場合の機密ファイルの改ざん
ウ.	不正プログラムによるウィルス感染
エ.	漏えいしたパスワードによる不正侵入

答え：\_\_\_\_\_

問8 バイオメトリクス認証はどれか。

ア.	個人の指紋や虹彩などの特徴に基づく認証
イ.	個人の知識に基づく認証
ウ.	個人のパターン認識能力に基づく認証
エ.	個人の問題解決能力に基づく認証

答え：\_\_\_\_\_

問9 ワンタイムパスワードに関する（ a ）と（ b ）に入る字句の適切な組合せはどれか。

利用者はトークンと呼ばれる装置を用いて生成される  
（ a ）のパスワードを使って認証を受ける。  
これをワンタイムパスワードと呼び、利用することでパス  
ワードの漏えいによる（ b ）のリスクを減らす。

	（ a ）	（ b ）
ア.	固定	DoS 攻撃
イ.	固定	なりすまし
ウ.	使い捨て	DoS 攻撃
エ.	使い捨て	なりすまし

答え：\_\_\_\_\_

問10 バイオメトリクス認証の例で、適切なものはどれか。

ア.	ATM 利用時にセンサーに手のひらをかざし、登録した静脈パターンと照合する。
イ.	スマホの画面を一筆書きで登録した順序でなぞることでロックを解除する
ウ.	複数の写真から特定写真だけを選ばせる課題を解かせて、人間の操作を確認する。
エ.	複数写真の中から本人に関係のある画像だけを選ばせることで認証する。

答え：\_\_\_\_\_

問11 ISMS（情報セキュリティマネジメント）のリスクアセスメントにおいて、最初に行うものはどれが該当するか。

ア.	リスク対応	イ.	リスク特定
ウ.	リスク評価	エ.	リスク分析

答え：\_\_\_\_\_

問12 セキュリティリスクへの対応は「移転・回避・受容・低減」があるが、この中でリスク移転に該当する事例はどれか。

ア.	セキュリティ対策を行い、発生率を下げた。
イ.	問題発生による損害に備え、保険に入った。
ウ.	発生時の損害は自己負担にした。
エ.	リスクが大きすぎるため、事業から撤退した。

答え：\_\_\_\_\_